



令和5年度運営事業費研究事業（インハウス研究） 研究報告書

認知症ケアスーパーバイザーに求められる役割に関する 文献研究

1. 背景と目的

認知症ケア実践現場において、認知症の人が大切にされていると感じながら生活を送ることができるよう、質の高い認知症ケアを実践していくことが専門職には求められている。そのためにも、認知症ケアに関する専門的知識を習得することができる機会が必要であり、その一つとしてスーパービジョン（以下、SVという）を展開していくことが挙げられる。SVでは、スーパーバイザーの価値観や知識、技術が大きく影響してくることから、スーパーバイザーは、スーパービジョンに対する正しい理解や知識、技術を身に付けることが必要であり、認知症ケアSVでも同様であるといえる。このことから、認知症ケアSVを実践していくうえで、スーパーバイザーが必要となるコンピテンシーを明確にすることが重要であると考えられる。本研究では、SVに関する文献整理をもとに、認知症ケア実践の中でSVを行う上で求められるスーパーバイザーの役割について検討することを目的とする。

2. 方法

社会福祉領域ならびに高齢者領域でのSVに関連する論文を、「国立国会図書館サーチ (NDL SEARCH)」、「Google Scholar」により検索した。検索語は「社会福祉 and スーパービジョン」、「高齢者 and スーパービジョン」、「認知症ケア and スーパービジョン」として、論文のタイトルまたは抄録に検索語が使用されている論文を対象とした。

論文の制定には、各データベース間の重複論文を削除し、1次（タイトルと抄録の精査）と2次（本文の精査）の2段階でスクリーニングを行った。その後、選定した論文をもとに、【SVの概念定義】、【スーパーバイザーに求められている役割】、【SVに求められる機能】、【認知症ケアSVの特徴】について整理を行った。なお独自性、有効性、妥当性などを担保するため、選定する論文は「原著論文」とした。

3. 結果

1次スクリーニングと2次スクリーニングを行い、最終的に採択基準に合致した17件をレビュー対象論文とした。

【SVの概念定義】では、「自己覚知の機会の提供」、「専門職としての成長するためのプロセス」、「スキルの向上」、「リフレクシオンの機会」、「より良い援助を提供するためのプロセス」、「課題解決のためのプロセス」という特徴が挙げられていた。

【スーパーバイザーに求められている役割】では、「スーパーバイザーの自己覚知」「スーパーバイザーのニーズを満たす」、「受容的な関わり」、「スーパーバイザーの成長への貢献」、「スーパーバイザーの実践力にあった関わり」、「気づきを促す」、「スーパーバイザーに認められる」が挙げられていた。

【SVに求められる機能】では、「管理的機能」、「教育的機能」、「支持的機能」、「評価的機能」の4つの機能が挙げられていた。

【認知症ケアSVの特徴】では、認知症の症状に対応する際のスタッフの迷いへのSV、「利用者の言動の理解と自分自身のリフレクション」、「バイザーとして認識されること」が挙げられていた。

4. 考察

論文の整理の結果、認知症ケアSVにてスーパーバイザーに求められる役割として、①スーパーバイザーの利益を優先した関わり、②スーパーバイザーの認知症ケア専門職としての専門性の向上を目的とした関わり、③スーパーバイザーの思いや気持ちを受け止める関わりの3点が考えられた。

5. まとめ

認知症ケアの実践では、認知症の人が望む生活の実現に向け、最善の援助を提供することが求められている。そのためには、認知症ケアを実践する援助者として成長していくことが必要であり、認知症ケアの実践においてSVは必要不可欠なものであるといえる。今後は、海外でのSVに関する研究論文のレビューを踏まえ、認知症ケアにおけるSVにおいて必要となる価値観、知識、技術について精査していく。